

学位論文審査結果の要旨

所 属	三重大学大学院医学系研究科 看護学専攻（博士後期課程） 看護学領域 看護教育学分野	氏 名	牛場 かおり
審 査 委 員	主 査 片岡 三佳 副 査 谷村 晋 副 査 角甲 純		
<p>（学位論文審査結果の要旨）</p> <p>多職種が関わる退院支援における病棟看護師のコーディネーション自己評価尺度の開発</p> <p>Development of a Coordination Self-evaluation Scale for Ward Nurses in Discharge Support with Interdisciplinary Participation.</p> <p>著者らは論文において下記の内容を述べている。</p> <p>本研究は、入院患者のシームレスな在宅移行に向けて、退院支援チームにおける病棟看護師の退院支援の質向上のために、多職種が関わる退院支援における病棟看護師のコーディネーション（Coordination by Ward Nurses in Discharge Support : CWNDS）自己評価尺度を開発し、検証したものである。</p> <p>方法は、2つの予備調査による予備研究を経て本研究を実施した。</p> <p>予備研究では、予備調査1においてCWNDS尺度原案を作成するために、病棟看護師、入退院支援看護師、他職種（医療ソーシャルワーカー、理学療法士）23名を対象として面接調査を実施した。その結果と「退院支援における病棟看護師のコーディネーションの概念分析」で抽出された属性を対比させて検討した結果、6つの構成概念からなる35項目のCWNDS尺度原案を作成した。予備調査2では、看護研究者と博士課程の大学院生11名を対象として、CWNDS尺度原案の内容妥当性について評価した。さらに、病棟看護師11名を対象として、内容妥当性、実施可能性について質問紙調査で評価し、28項目のCWNDS尺度決定案を作成した。</p> <p>本研究では、200床以上の42総合病院に勤務する病棟看護師1668名を対象とし、信頼性・妥当性の検証のため2回の調査を行った。1回目の調査では回答のあった542名、2回目の調査では313名を対象に、項目分析、構成概念妥当性、基準関連妥当性の検討</p>			

を行った。

結果、CWNDS尺度は3因子（『在宅移行に向けた関係者の橋渡し』『退院支援システムの改良』『患者・家族の意向の尊重』）構造、26項目の質問項目となった。確認的因子分析によるモデル適合度はGFI= .86、AGFI= .83、CFI= .90、RMSEA= .072で、さらに基準関連妥当性での尺度全体の相関は $\gamma = .69$ （ $p < .001$ ）であった。

CWNDS尺度の信頼性と妥当性を確認した結果、尺度全体のクロンバック α 係数は $\alpha = .94$ 、再テスト法での尺度全体の相関は $\gamma = .65$ であった。これらの結果から、構成概念妥当性、信頼性と妥当性は概ね確保された尺度を開発できたと考えられた。

結果より、退院支援における病棟看護師のコーディネーションを可視化したCWNDS尺度を自己評価として活用し、退院支援における病棟看護師のコーディネーションを高めるための看護教育の必要性を示唆した。

本研究は、多職種が関わる退院支援における病棟看護師のコーディネーション自己評価尺度の開発・検証した論文であり、学術上極めて有益であり、学位論文として価値あるものと認めた。